



空気を読む



昨日の全校集会で、先週行われた文化発表会でお話しできなかったことを改めて紹介しました。

当日話せなかったことを2つ話したいと思います。

1つは、当日お話ししたように、合唱コンクールでは賞をとれるクラスととれないクラスがありました。悔しい思いをした人もいるかと思いますが、改めてコンクールの目的を思い出してください。賞をとることは目標でした。それなのに勝てなかったときに「〇〇のせいで勝てなかった」など、人のせいにして、責めたりしませんでしたか。これは目的を完全に見失っています。

そして、考えてみてください。もし、学年が1クラスだったらどうでしょう？ 実際にそんな学校もあります。競い合うことすらできない、盛り上がりにかけるコンクールになっていたと思いませんか。そんな中でみんなは、**正しく競い合う**ことができたことを大切にしてほしいと思います。だから人を責めるのではなく、自分はどうだったのかを振り返ってほしいと思います。**勝ったことを本当に喜べたのか、負けたことを本当に悔しいと思えたのか。**それが一番大切です。

2つ目は、良かったことです。真鍋先生からもお褒めの言葉がありましたが、みんなの鑑賞態度です。幕間のざわつきから、もうすぐ始まりますよの音楽が流れだすと、自然に静かになり、観る姿勢になっていく。本当に素晴らしいなと思いました。こんな様子を何というか知ってますか？それは、『**空気を読む**』です。誰に注意されるでもなく、自然にもう話をやめよう、しっかり舞台を観ようと、意識を変えることができた力です。この全校集会中もみんなは空気を読んでおしゃべりせず、しっかり顔を上げて話を聞いてくれています。そんな力がみんなにはあるのです。この力をいろんな場面で活かしてほしいと思います。まずは授業中に活かしませんか。先生が説明をしている時、しゃべるときか、そうでないか、空気を読んでほしいと思います。そういう切り替えができると信じています。次は体育大会、クラスの団結に加え、個人の戦いもあります。正しく競い合い、最後まで全力で頑張りましょう。期待しています。

生徒会役員選挙がありました。冒頭、お話しした内容を抜粋して紹介します。

今日の立会演説会は、立候補者が「この中学校をどんな学校にしたいか」「そのために何をするか」という公約や熱い思いを、全校生徒に直接伝える大切な場です。聴いている全校生徒のみんなに、校長先生から一つお願いがあります。それは、立候補者の言葉を「自分事(じぶんごと)」として真剣に聴くということです。生徒会は、役員だけで作るものではありません。皆さん一人ひとりが生徒会の会員であり、学校の主役です。「この人に任せたら、どんな学校になるだろう」「自分ならどう協力できるだろう」と考えながら、一言も聞き漏らさないつもりで、真剣に耳を傾けてください。

立候補者の皆さんが、これまでの準備の成果を出し切り、堂々と自分の想いを発表できることを期待しています。素晴らしい演説会にしましょう。